

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

2020. No.359 6  
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています



写真：ケニア、モザンビーク、日本、コンゴ民主共和国



折り信じて、互いに助け合っていていきましよう

コロナウイルスの脅威が過ぎ去ることを



COVID-19 「緊急救援募金」受付中

## Contents

- 見えない新型コロナウイルスとの戦い② P.2-3
- コンゴ民主共和国 ジェローム駐在員の報告
- Hunger Zero 活動報告
- 若い農夫を応援する新たな支援 P.4-5
- チャイルドサポーター 第6番目の支援地
- ルワンダ・サルヘシ村で活動開始 P.6
- HZを応援して下さる皆さんの広場 P.7







## 【コンゴ民主共和国】

# 感染拡大が続けば貧困層にさらなる試練

新型コロナウイルスの感染拡大がコンゴ民主共和国で始まった3月10日の時点で、すべての活動地(プウェト、ルブンバシ、カレミ、キンシャサ)の人々の健康状態と活動の進捗具合を把握するために電話による連絡体制を構築。(緊急事態宣言で外出は自粛中)カレミは村長のンクンダ氏から、プウェトは農業プロジェクトを行うパメラさんを含む3人の協力スタッフから5つの村の状況について報告を受けています。またルブンバシとキンシャサも同様に状況確認に努めています。  
(報告:ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ駐在員 ジェローム・カセバ)



HOLC=ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ

### 新型コロナウイルスへの認識不足が警戒意識を弱める

コンゴ民主共和国における5月7日現在の感染者数は682人。首都キンシャサが652人、北キブ州7人、南キブ州4人、イツリ州2人、クウィル州1人、カタンガ州(ルブンバシ)10人。新たにコンゴ中央州で6人。キンシャサでは市の刑務所と兵舎で140人以上の感染が確認されました。コンゴ民主共和国で感染が拡大し始めた当初、女性の感染率は12%でしたが、最近では38%まで上がりました。

最初の新型コロナウイルスの感染者は3月10日に首都キンシャサで確認されました。フランスから帰国した52歳のコンゴ人でした。この時点では「新型コロナウイルスは寒い国でのみ起きる」とか「白人のみに感染する」という考え方が国民に広がっていたこともあり、新型コロナウイルスの危険性が伝わりませんでした。そのためキンシャサでは人々が木の根や葉っぱを煎じたものなどの伝統的な民間療法によって予防ができると信じていました。

それでも政府がWHOなどの機関と連携してラジオやテレビなどのメディアや地域の保健員による啓発活動を進めた結果、新型コロナウイルスの危険性や感染予防の重要性が伝わり、人々が政府に協力するようになりました。検査は、コンゴ全土で1日120人程度だったものが、世界保健機関の支援で500人まで拡大しています。検査キットと検査機関の不足のために、キンシャサ以外では検査ができないことが大きな課題です。感染者は現在までにキンシャサのほか7州に広がっています。南キブの新型コロナウイルス対策チームのトップは、性暴力の被害女性への支援活動で、

2018年にノーベル平和賞を受賞したムクウェゲ医師です。

### ロックダウン対策は貧困者には困難

キンシャサでは感染拡大を防ぐために、ロックダウンが続けられていますが、人々の多くは生活に余裕はなく、食料、水、その他の生活必需品を得るために外出の自粛ができません。貧困者への抜本的な生活支援がない限りロックダウンによる感染予防効果は薄いと思われます。

4月24日にハンズ・オブ・ラブ・コンゴの活動地カタンガ州ルブンバシで初めて確認された感染者は58歳のコンゴ人で、ナイロビからタンザニアとザンビア経由のバスに乗車していました。この事態をうけてルブンバシでは、緊急事態宣言が4月24日からさらに15日間延長となり、バスなどの交通機関も運休しています。現時点までに、スタッフ、活動地域の住民、孤児院の子どもたちに感染は確認されていません。

### HOLC活動地での感染者情報で直ちに予防対策

ルブンバシで感染者が確認されたと聞き、活動地のコミュニティへの影響を考慮して私たちHOLCスタッフは恐怖を覚えました。プウェトの協力スタッフとルブンバシの協力者である牧師に電話で話し合い、プウェト・ルブンバシ共にコミュニティ内に感染者がいない



## コロナ感染から守る「緊急救援募金」にご協力ください!!

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。  
ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右QRコードから  
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記



スマホから募金ページに

という情報を得ましたが、こまめに手洗いをする、多数で集まることを避けるなどの感染予防策を徹底することを確認しました。

カレミでは感染者は未だ確認されていません。カレミの村長によると、カレミの保健当局の担当者が毎週ルンクウェキャンプを訪れ、そこで生活している国内避難民の健康状態をチェックしているようです。

### エボラ出血熱の第2波が新たな懸念にも

新型コロナウイルスの感染拡大と並行して、北キブ州の町ベニでは4月21日までにエボラ出血熱の感染者が6人確認されました。世界中が新型コロナウイルスに注目して

いる中でエボラ出血熱の感染拡大の第2波が来るかもしれないという懸念があります。

#### ●コンゴ政府の新型コロナウイルス感染対策

- 1) 医療特別委員会を設置
- 2) 感染リスク国からの航空便の乗り入れ禁止 (大統領令)  
3月19日よりEU諸国、韓国、中国を含むすべてのハイリスク国が対象。
- 3) 大学を含むすべての学校の閉鎖
- 4) 人と人との距離を置くことやマスク装着を推奨
- 5) 首都キンシャサをロックダウン  
(3月26日 大統領が緊急事態宣言発令)  
・キンシャサ発着の全ての航空便が発着禁止  
・外出時のマスク着用義務付け

## 【ケニア】シープケアセンターのコロナ対策 コミュニティの貧困家庭に水を無償提供

ハンガーゼロが学校給食や自立のための収入向上を支援しているケニア・シープケアセンターのルーク校長から、新型コロナウイルスへの対応と直面する課題についての報告が届きました。

#### ●センターの新型コロナウイルス対応

午後7時～午前5時の外出禁止措置のために、すべての作業は午後4時までに終了。

シープケア・コミュニティセンター (小学校)、マリショー・セカンダリースクール共に閉鎖。

#### ●近隣コミュニティの貧困家庭に緊急支援

貧困層が暮らすコミュニティの家庭に20リットル入り容器5個分の水を無料で提供。また、オックスファム(英

国のNGO)から石鹸の提供があり、コミュニティ(スラム)の住民1,000人以上に配給しました。

#### ●センターが直面している緊急課題

- 移動制限のためにスクールバスが稼働できず、給食のための資金確保ができない。
- 生徒の家庭では食料不足が深刻になりつつある。
- 教師やスタッフへの給料の支払いが滞る恐れがある。
- 生徒の家庭への食料の配給ができない。

#### シープケアセンター・ルーク校長から…

感染者の数は日に日に増加しており、いつまで続くのかわからないという不安に押しつぶされそうになります。

車でスラムの中を通過して学校へ行く度に、貧しい人たちが酔っ払いが何か貰おうと寄ってきて恐怖を感じるほどの状況になっています。

政府が国民の食料確保のための政策を取らないまま、ケニア全土がロックダウンになったらと考えると不安に襲われます。



ロングライフは、  
「ヘルス&ナチュラルビューティ」  
みなさまに「健康」で「美しい」人生をご提供するための  
ラグジュアリーなサービスをご提供いたします。



**私生活を健やかに愉しむ。**  
好きなことを楽しんでいただくために、  
パーソナルな選りすぐりメニューを  
お一人おひとりの健康を日々サポート。



**食から人生をより豊かに。**  
旬の食材を使って作る美味しい料理は、  
最新の栄養学に基づいたメニュー  
人生100年時代のための食事をどうぞ。



**年齢を重ねてこそ美しく。**  
いつまでもご自分らしく輝き続けるために、  
パーソナル美容アドバイスなどで  
人生そのものを、もっと楽しく美しく。

ロングライフで、  
もっと素適に！ずっと楽しく！

Health &  
Natural Beauty.



皆様のセカンドライフに寄り添い35年

35

私たちロングライフグループは、  
ハンガーゼロの活動を応援しています。

国内外268のサービスステーションを展開  
人生は、まだまだ素適になる。

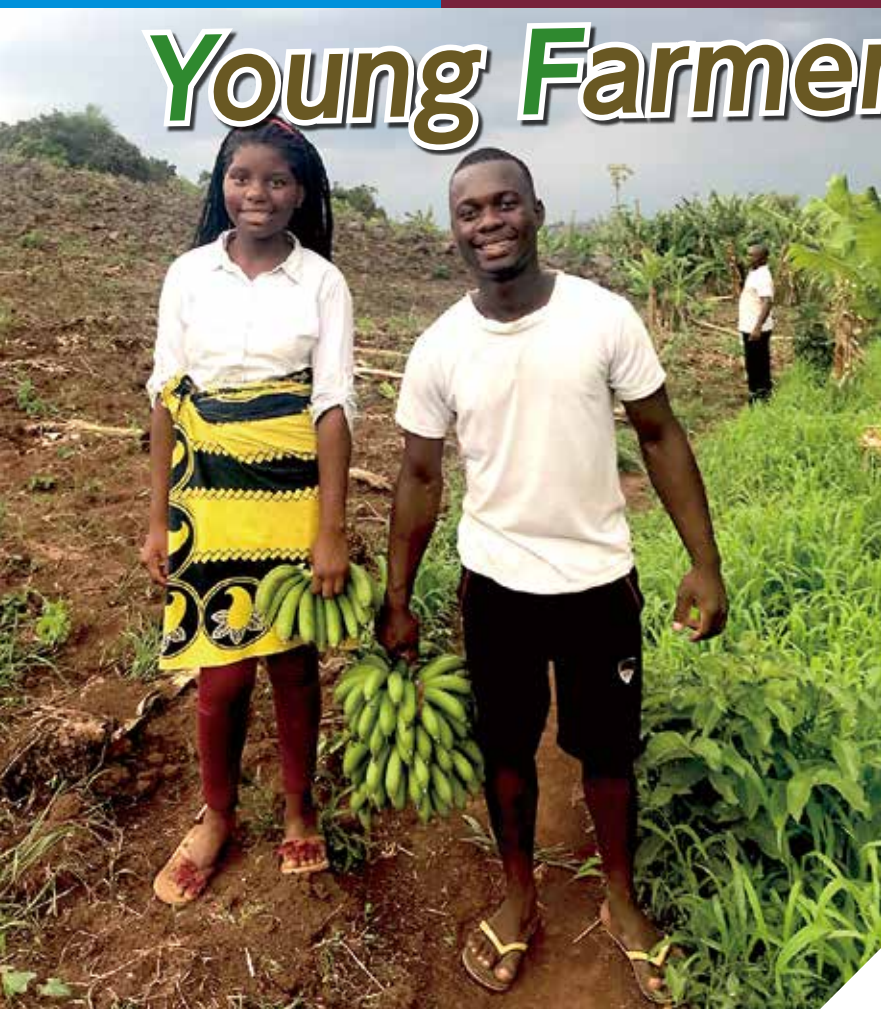
LONG LIFE GROUP ロングライフグループ  
Resort & Long Life  
4386

大阪本社: 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階  
東京本社: 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階

0120-550-294



# Young Farmer Partnership



ハンガーゼロは、2020年4月より東アフリカのモザンビーク・ソファラ州ゴロンゴザ地区で現地パートナーのハンズ・オブ・ラブ・モザンビークを通して持続可能な農業を目指す若者の支援を始めました。



## 【ゴロンゴザ地区の概要】

モザンビークは約10年の独立戦争の末、1975年にポルトガルからの独立を果たしましたが、翌年から内戦に陥り、戦いは16年も続きました。1992年にモザンビーク和平包括協定が結ばれ内戦は終結しました。しかし争いは現在も続いており、反政府レモナ党の拠点だったここゴロンゴザでは4-5年前も激しい銃撃戦があり、2019年の大統領選挙後から再び治安が悪化しています。ゴロンゴザの人口は176,845人(87%が40歳以下)、面積6,778km<sup>2</sup>。大半は専業農家で主にとうもろこしを生産していますが、作物を販売し収入向上につなげている農家は限られています。ゴロンゴザには青空市場が一つあるのみで、顧客も町内の人々に限られています。換金作物を効果的に収入につなげていくには、戦略的な計画が必要です。内戦からくる治安の不安定さは否めませんが、土地は肥沃で大きな可能性を秘めている地域です。

## 非常に狭い社会の中だけで生きる現実…

ゴロンゴザの若者を取り巻く問題は様々ですが、教育の質の低さがその根本にあります。ゴロンゴザにはサテライト大学が1校あるのみで、大学や専門学校に進むためには引っ越して自活しなければなりません。生活費と授業料を確保することは至難の業で入学するための倍率も非常

に高いため、大半の若者が高校3年を終えたとしても、自宅の畑を耕し結婚を考える事になります。非常に狭い社会の中で生きているため、様々な可能性に対してもアイデアが乏しく、現在の生活レベルを上げていくには近隣国の新しい取り組みの紹介など、サポートが必要です。

このプロジェクトでは、新しい手法に対して受容性の高い若者を主要対象とし、若者チームと共に循環型の実演農場を築き上げていきます。地元の方々に実際に農場を訪問いただき、自分の畑に新しい手法を導入する価値を実感していただくことで働きが広がっていきます。若者チームの実践農家への支援により成功例が増え、地域全体へと普及していくことが私たちの願いです。

## 農業技術

- 土壌改良：土壌劣化を防ぐためコンポストなどを利用し、化学肥料を使用せず有機的に土壌を改善させる方法を導入する。
- 野菜畑、家畜の飼育、森林を組み合わせた循環型農場を運営する。
- 持続可能な水源の確保：雨水貯蔵タンクの設置、「gotagota」法(チューブに一定間隔で穴を開けて給水する)など。
- 森林伐採を最小限にする農業を導入する。森林を残し、そこで苗木の栽培をして販売する。
- 「神様の毛布」の導入(土地を耕さずに枯葉などで土壌を覆うことで一定の温度と湿度を保ち、土壌の流出を防ぐ)



## ハンズ・オブ・ラブ・モザンビーク

ソファアラ州ゴロンゴザ地区に拠点を置くキリスト教系の現地NGO法人で2015年に設立。創設者のカラベティ・エルネスト氏は、国際飢餓対策機構モザンビークで十数年に亘り子どものプロジェクトに携わってきました。2008年に子どもたちの全人的成長を助けるため、自宅で活動を開始、現在は毎年200人を超える子どもたちをサポートするまでに発展しています。この活動から巣立っていった多くの若者たちが社会で活躍し、所属するキリスト教会でも貢献をしています。ローレンス綾子さんは、JIFHモザンビーク駐在員として世界里親会（現チャイルドサポーター）のプログラムマネジャーを務め、カラベティ氏とも5年間共に働きました。2015年の団体正式発足に尽力、以来自身も活動に携わって協力しています。



ローレンス綾子さんとカラベティ氏



Mozambique



▼ゴロンゴザ

●ベイラ



## 地域の未来をつくる若者のチャレンジを応援してください

●作物のローテーション：どの組み合わせが一番土壌疲労を最小化にとどめ、かつ経済的な見返りが大きいのかを試験的に何パターンか試す。

## マーケティング

●ローカルマーケット：ゴロンゴザの町市場で販売できる物を調査し、実施可能な作物を割り出す。マーケットは小さく限られてはいるが、搬送費がかからず個人で販売できる。

●近隣の会社との取引：シモイオやベイラ、カイアなど、ゴロンゴザから150km～250kmの範囲内で販売可能なルートの調査。例えばシモイオでは蜂蜜、カイアでは胡麻の会社があり農民と取引を行なっている。さらに国の第二の都市であるベイラでも様々な可能性がある。

●自助グループの形成：交渉力を上げるために今後グループを形成する。

可能な農業が他の農家に普及していくために、定期的な集まりに参加するよう促します。

農家から農家へと広がっていくことで、土地が肥沃な状態を保ちつつ収量と収入が地域全体的に上がり、ハンガーゼロの元里子（サポートチャイルド）たちが、育った地域に残って人々の生活を向上させていくことを願っています。地域の未来を支えるこれらの若者をどうぞ応援してください。

（ハンズ・オブ・ラブ・モザンビーク/ローレンス綾子）

ハンガーゼロサポーターとなって  
モザンビークの若い農夫たちの取  
り組みを応援してください！  
QR からハンガーゼロサイトへ▶



Okuda DESIGN PROJECT 施工例  
ガレージハウス富士見平

Okuda DESIGN PROJECT

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—

インターネットでお部屋探し。

[www.okuda-re.co.jp](http://www.okuda-re.co.jp)

代表取締役社長 奥田 英男

〒197-0003 東京都福生市熊川 447-9

042(552)0102(代)

Okuda  
総合不動産 有限会社オクダ商事  
総合建設 オクダ建設株式会社

[学び] Hands of Love センターで定期的に学びと交わりの時を持ち、聖書的な世界観、新しい農業手法の復習と目的の確認、分かち合いなどを行います。また奨学金制度を設立し、将来の農業を牽引していく若者を応援します。Hands of Love ではすでに2020年から一人の青年を支援していて、現在 Universidade de Catolica Moçambique で農業を学んでいます。

## モニタリングと評価

日本の窓口となる、ローレンス綾子（元 JIFH）が年に1、2度視察しその都度必要な調整を行なっていきます。持続



6番目の支援地 **ルワンダ・サルヘシ村で活動開始**



**チャイルドサポーターを募集します！**

FH= 国際飢餓対策機構

**貧困の連鎖から抜け出せない**

ムウェンド地区にある8つの村の一つ、サルヘシ村は、人口3,447人、775世帯が住む村で、多くの家族が貧困下に置かれています。村人たちは自給自足的農業に生活基盤を置き、1家族平均0.75ヘクタールほど所有している土地は非常に痩せているため、十分な農作物が得られません。また土地をもたない家族はもっと劣悪な環境で暮らしています。作物の生産性が低い



ため、十分な所得が得られず、土壌を改良するための肥料も購入できなくて、貧困の負の連鎖から抜け出せません。子どもたちと家族は十分な食事が摂れないため、栄養不良状態が続いています。

**まず教育環境の改善からスタート**

FHルワンダは、村のリーダーたちが主体となって、村の貧困問題の解決にあたることができるように助けながら、まず開始から2年間は、子どもたちの教育環境の改善、村人たちの健康状態の改善、家族の収入向上、また地域の災害リスクの軽減につながる活動を実施します。



▲学校トイレが少ないために順番に並ぶ子どもたち

サルヘシ村が貧困から卒業し、自立できるまでにかかる道のりは遠いかもかもしれません。しかし、私たちは子どもたちとその家族、村人と一緒に目標を目指して歩み出そうとしています。この道のりを一緒に歩んでくださるサポーターを募集しています。



サルヘシ村が貧困から卒業する日を迎える時、子どもたちや家族は栄養のある十分な食事が摂れるようになり、家族の収入は増え、衛生状態の改善による病気も軽減されて子どもたちが安心して学校で学んでいることでしょう。そのような日を早く迎えることができるように、皆さまの支えを必要としています。

是非、ご支援をよろしくお願いいたします。



2つの方法でサポートができます

特定の子どもとつながる。

**チャイルド サポーター**  
月々4,000円

特定の子どもとつながることにより、子どもたちの文通や定期的な活動報告を通して、より支援地を知ることができます。

月々または自由なタイミングで支援する。

**フィールド サポーター**  
1,000円～

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動を支援いただきます。子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。



チャイルドサポーター専用サイトからお申し込みや資料請求ができます。



登録はこちら▼



電話での問い合わせはCS事務局へ 直通TEL072-920-2226



新会社に自販機を設置された EFFORT さんを訪問

## 新形態フィットネス事業でハンガーゼロを応援します

「EFFORT」(エフォート)は、無店舗型の全く新しいフィットネスサービス事業で、昨年12月に設立、大阪市内に事務所を開設しました。同所は事業に参加するトレーナーらが情報交換などで自由に集まれる場も兼ねているため、ハンガーゼロ自販機を設置して下さることになり、お訪ねしました。

準備中の事業は、フィットネス参加希望者(登録会員)とトレーナーをスマホ専用アプリ(開発中)でマッチングして行われます。具体的には、トレーナーがフィットネスを行いたい場所(自宅、会社内、屋外など)や参加人数、時間帯、受講形式(トレーナー派遣又はオンライン)を自由に組み合わせることで、ジムに行かなくてもサービスを受けられる仕組みとなっています。

受講できる内容は、運動系に限らず登録されている管理栄養士、理学療法士、美容師、メントレ、看護師、保育士などの専門分野のインストラクターによるセミナーや講演会などもあり非常に多岐に渡っています。その中には大手フィットネスクラブで実績を積んだトレーナーによる「トレーナー育成」コースやダンスレッスンなどもあり、無店舗形式のほかにも従来型フィットネスとの違いを打ち出しています。

「アプリは開発中なので、今はオンラインで無料で行っています。…コロナ禍の自粛でジムに通えない人をはじめ、ジム未経験の人たちがテレビやネットがあれば自宅でもフィットネス体験ができることに気づきました。マット1枚があれば始められ

ますから」(EFFORT 代表 藤田晋氏)

同氏によると①時間がない②器具が使えない③仲間がない④筋肉のつけ

方がわからない、などがジム通いを止める人の主な理由だそうです。そこで同社が無店舗型のフィットネスサービス事業を提唱したところ、様々な分野のトレーナーや健康関連の専門家などから参加したいとの声が集まりました。

「できれば夏以降には正式にスタートしたいと考えています。事業として軌道に乗ったらハンガーゼロさんともチャリティを行いたいです。例えば1キロ痩せたら、飢餓に苦しむ方に1食分提供とか。また、ハンガーゼロの活動地にトレーナーを派遣して、現地の人々の健康改善のためのフィットネスや子どもたちの体育とか管理栄養士による食の改善指導(現地の食材を用いる)とかやりたいです」(同)

「EFFORT」の挑戦はこれからですが、こんな素晴らしいアイデアが形になるのであればハンガーゼロも大歓迎です。よい事業に育つように期待いたします。

※「EFFORT」に関心のある方はQRからLINEやInstagramで案内を見たり、各種の体験に参加することができます。お試しください。(関西地区限定)



清家理事長より藤田代表に感謝状



新たな取り組みで募金を寄せられた八尾トヨ一住器さん

## 建設業界とSDGsをつなぐ第一歩になりました

昨年10月に本紙で紹介しました八尾トヨ一住器さん(大阪府)の建築業界「SDGs拡大キャンペーン」(10~12月)の取り組みから、このほどハンガーゼロに対して募金を寄せていただきました。同社はこれまでも地域貢献型イベント「こころプロジェクト」やハンガーゼロ自販機の設置などで応援を続けてくださっています。金子真也社長(写真)と経営企画室の田村亮リーダーに感謝を表すとともに今回の取り組みについて聞きました。

「初めての取り組みでしたが、お買い上げいただいた工務店さんから自分たちの事業がSDGsの貢献につながるなら協力したいという声を多数いただき、非常にありがたかったです」

「またこれまでのイベントとは違い、自社の商品販売を通じて社会貢献につながったことに社員も喜びを感じています」

今回は建設業界としてどのようにSDGsに取り組めるかという同社のチャレンジでありましたが、予想以上の手応えを得られたことは、ハンガーゼロにとっても大きな喜びです。コロナ禍で企業業態にも影響が出る中で同社の果敢な社会貢献へのチャレンジは社会全体にも大きな励みとなります。

「初めてのことでしたが、お買い上げいただいた工務店さんから自分たちの事業がSDGsの貢献につながるなら協力したいという声を多数いただき、非常にありがたかったです」

「またこれまでのイベントとは違い、自社の商品販売を通じて社会貢献につながったことに社員も喜びを感じています」

今回は建設業界としてどのようにSDGsに取り組めるかという同社のチャレンジでありましたが、予想以上の手応えを得られたことは、ハンガーゼロにとっても大きな喜びです。コロナ禍で企業業態にも影響が出る中で同社の果敢な社会貢献へのチャレンジは社会全体にも大きな励みとなります。

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました!



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさとお届けします。  
株式会社パン・アキモト

パンの缶詰 since 1995

〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋295-4  
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

## コロナ禍の国内緊急支援として 「パンの缶詰」を寄贈

パン・アキモト(秋元義彦社長)は、ハンガーゼロを通じてパンの缶詰の「救缶鳥」を食料支援を必要としている海外の活動地に送っています。この4月、新型コロナウイルスの影響で食料確保が困難になっ



ている新潟の「フードバンクにいがた」の窮状を支援者の長岡聖契キリスト教会日吉牧師が、パン・アキモトに伝え、パンの缶詰 36 ケースがフードバンクに届けられました。そのパンの缶詰は週末に開催されている子ども食堂で、コロナ感染対策で食事が作れないため、それにかわるモノとして提供されました。

## 新ラベルになりました 大人気のHZコーヒー

記念セットを発売

レギュラーコーヒー モカ・ブレンド  
1袋 200g 入り 3袋を送料込み  
3,000円にてお届けします。

サポーターの方には、2,800円でお届けします。(但し：北海道、沖縄へは800円加算)



(受付期間: 2020年6月末日まで)  
お申し込み: (株)キングダムビジネス  
スマートフォンはQRコードから  
電話注文: 06-6755-4877



【お支払い方法】  
当社指定口座へ  
後払い

郵便振替 00950-0-216776  
(株)キングダムビジネス

## 本やゲーム、CDの整理に 本 de リンクを活用ください

愛知事務所では送られた本やCD・ゲームソフトを換金して、飢餓・貧困に苦しむ人々の支援に使わせて頂いています。引越しなどの際はぜひご活用ください。破れや汚れ、書き込みのある本、個人出版、文学全集、CD類。割れ、ジャケット、歌詞カード不備など対象外となる場合もありますので、ご利用の際は**まず愛知事務所へお問合せください。**

## 各種手続きにお時間を いただいております

当機構各事務所ではテレワークの影響により、支援者の皆様への電話対応・領収証の発行・支援申し込み手続きなどで、通常よりお時間をいただいております。申し訳ございません。ご理解のほどお願い申し上げます。(事務局)

## 励ましリレー動画をサイトで公開中!



ハンガーゼロのJIFH ウェブサイトでは、コロナ禍にある支援者の皆様に向けて「心と体のリフレッシュ」と題して励ましリレー動画を公開しています。当団体のスタッフや理事や親善大使の皆さんがメッセージや歌で応援をつないでいます。ぜひご覧ください。

※▶記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

## サポーターお申し込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 359号

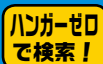
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )円 □ (1円 1,000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月( )円 □ (1円 500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月 4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **4758** 口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト  
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構  
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1  
(広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155  
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517号室  
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782  
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 名古屋YWCAビル 6F  
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132  
沖縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メゾンク米 202号  
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216  
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Tポイントを利用して「南スーダン・マイ小学校給食支援」ができます。現在までに855,297ポイント(円)のご協力(9,652件)がありました。Tポイント募金で検索。  
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。